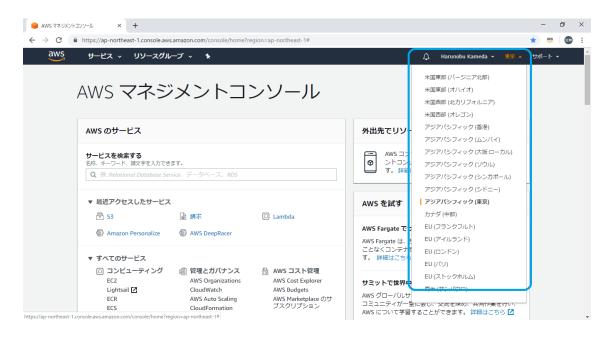
Amazon Personalize ハンズオン (No.Codes)

はじめに: Amazon Personalize は AWS が提供している過去の購買履歴などから個人化レコメンデーションを行う機械学習サービスです。データの投入や学習などで待ち時間が発生するため、Amazon Forecast ハンズオンとの同時並行をお勧めします。

1. ハンズオンを行うリージョンを画面右上から選択。リージョンは講師の指示に従ってください。



2. 映画の視聴履歴ファイルをダウンロード

https://bit.ly/2XEEQxk

ユーザー610 人による 9700 本の映画視聴履歴とその評価が 10 万件以上ファイルに含まれています。

USER_ID: ユーザーの識別 ID (商用環境では別途ユーザーマスタと連結してください)

ITEM_ID:映画のID(商用環境では別途アイテムマスタと連結してください)

TIMESTAMP:映画批評を入力された時間です。(このハンズオンでは用いませんが、Amazon Personalize の実行では必須なカラムです)

Amazon Personalize はこれらのデータをもとに、批評の相関図を作成し レコメンドを行います。従来これらのデータ分析は、Amazon EMR などを 用いたヒューリステック分析が必要でしたが、Amazon Personalize では これらが自動化されることが特徴です。

例)User (1) が 映画 A、B、C を視聴した場合、User(2)が B を視聴した場合、A と C がレコメンドされる。レコメンド以外にも、データの相関関係を見出す用途で様々な用途が今後想定されます。また、本シナリオでは使用しませんが、CSV ファイルには Rating(視聴済映画に対するユーザーからの評価)も準備されており、ユーザー評価に基づいたさらに細かいレコメンドが Amazon Personalize では可能です。

3. Amazon S3 バケットに先ほど DL した ratings.csv をアップロードします。S3 バケットは既存のものを作成してもよいですし、新規で作成しても問題ありません。S3 バケットは以下のバケットポリシーを設定してください。すでにバケットポリシーが設定されている既存 S3 バケットでの作業はお勧めしていません。

```
"Version": "2012-10-17",
"Id": "PersonalizeS3BucketAccessPolicy",
"Statement": [
    {
        "Sid": "PersonalizeS3BucketAccessPolicy",
        "Effect": "Allow",
        "Principal": {
            "Service": "personalize.amazonaws.com"
        },
        "Action": [
            "s3:GetObject",
            "s3:ListBucket"
```

{

```
],

"Resource": [

"arn:aws:s3:::bucket-name",

"arn:aws:s3:::bucket-name/*"

]

}
```

bucket-name はご自身で作業するバケットの名前を入れてください。

S3 バケットを新規に作成する場合は、全てデフォルトで作成してください。

【バケットを作成する】のボタンを押します。



バケット名は全 AWS ユーザーの全リージョンで一意である必要がありますので、ある程度長い名称にします。リージョンは、講師から指示されたリージョンを指定してください。

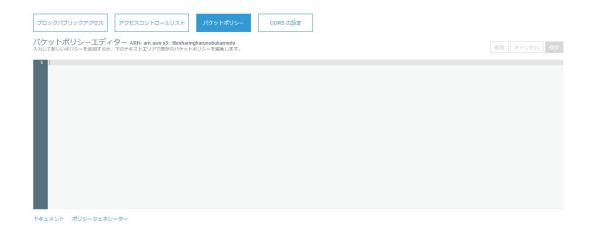
	バケットの作成						
1 名前とリージョン	② オプションの設定	③ アクセス許可の設定	4 確認				
名前とリージョン							
// / /////////////////////////////////							
DNS 準拠のバケット名を入れ	りする						
リージョン							
アジアパシフィック (東京)			v				
既存のバケットから設定を	⊐Ľ−						
バケットを選択する(省略可) 52 バケット		V				
作成			キャンセル 次へ				

バケットが作成されたらバケット名をダブルクリックして詳細画面へ遷移

し、【アクセス権限】タブを押します。

Amazon S3 > filesharingharunobukameda							
	概要	プロパティ	アクセス権限	管理			
	ブロックパブリックアクセス	アクセスコントロールリスト	パケットポリシー	CORS の設定			
	ブロックパブリックアクセス (パケット設定)						
	うにするには、パブリックアクセン	スをすべてブロック] をオンにします フセスなしで正しく機能することを&	これらの設定はこのバケッ	を介してパケットとオブジェクトに許可さ ットにのみ適用されます。AWS は J/ プリ ケットやオブジェクトへのある程度のパブ	ックアクセスをすべてブロック) を	オンにすることをお勧めしますが、こ	れらの設定を適用する前に、
	パブリックアクセスをすべて オフ ー 新しいアクセスコントロー		 とパケットとオブジェクトへの	のパブリックアクセスをブロックする			編集

【バケットポリシー】をボタンを押し、上記のポリシー内容をコピペし、 【保存】を押します。

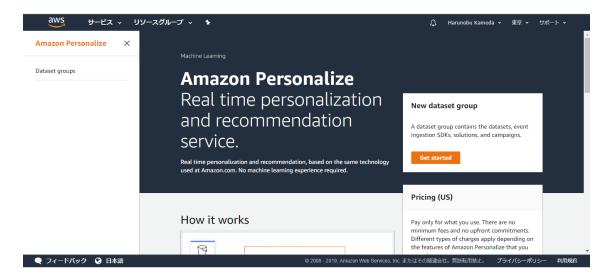


4. Amazon Personalize のマネージメントコンソール

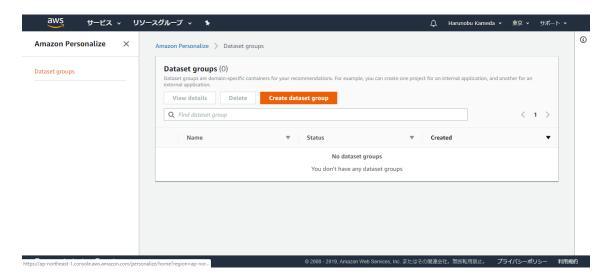
(https://console.aws.amazon.com/personalize/) にアクセスしま

す。

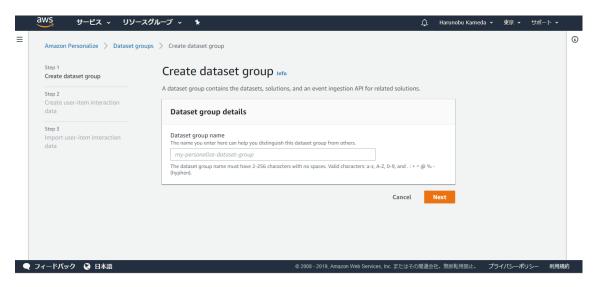
#先ほど指定したリージョンになっていることを改めて確認します。



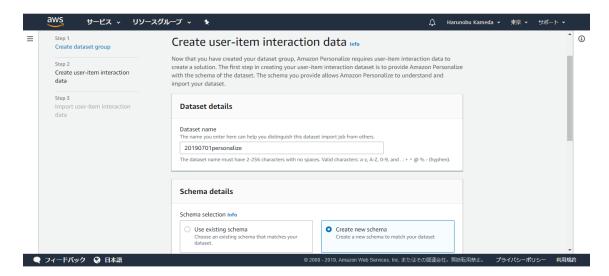
5. 画面左の [Dataset groups]を選択し、[Cerate dataset group]を押してください。



6. 作成する Dataset Group に任意の名前を付けてください。

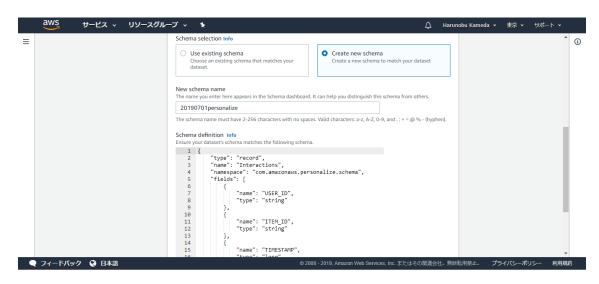


7. 作成する Dataset に名前を付けます



8. [Create new schema]を選択し、Schema に任意の名前を設定しま

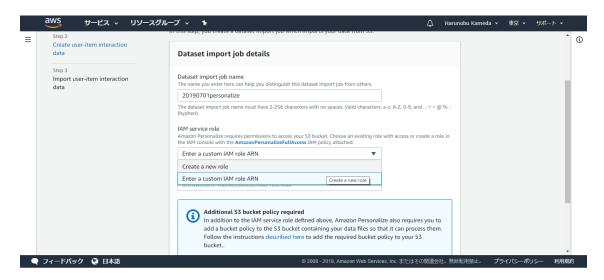
す。



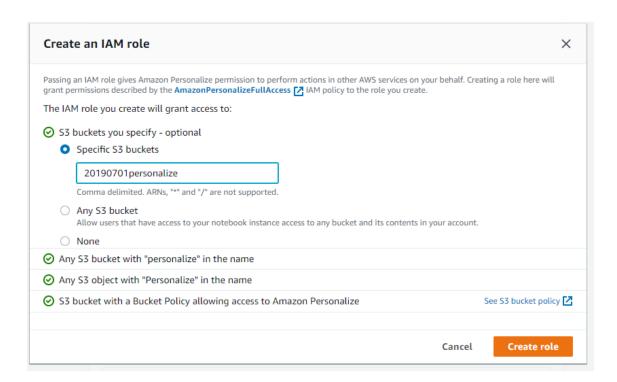
9. [Next]を押します

1 0. [user-item interaction data] (先ほどの ratings.csv)をインポートする job の起動を行います。[Dataset import job name]に名前を入力します。

[IAM service role]で[Create a new role]を選択します。

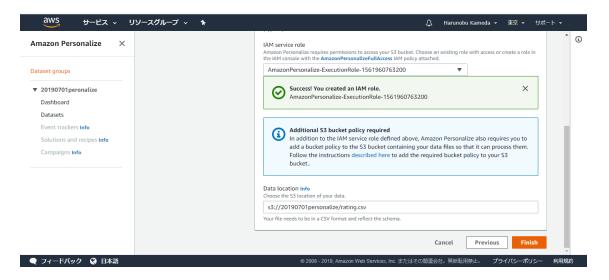


1 1. 先ほど作成した S3 バケットの名前を[Specify S3 buckets]に入力して[Create role]を押します。



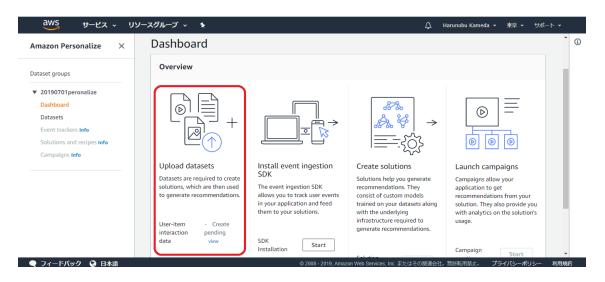
1 2. [Success! You created an IAM role.]が表示されていることを確認します。

[Data location]に s3://<bucketname>/ratings.csv を入力します。



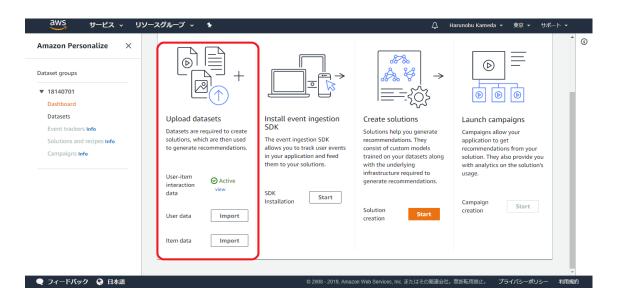
13. ステータスが[Create Pending] or [Create in Progress]になりますので少し待ちます。

Finish ボタンを押しても画面が遷移しない場合、ブラウザ上部の見えないところでエラーが出ていますので、右側のブラウザスクロールバーで一番上まで戻りエラーメッセージを確認してください。(ほとんどのケースにおいて、S3のパス、もしくはファイル名のタイプミスです)

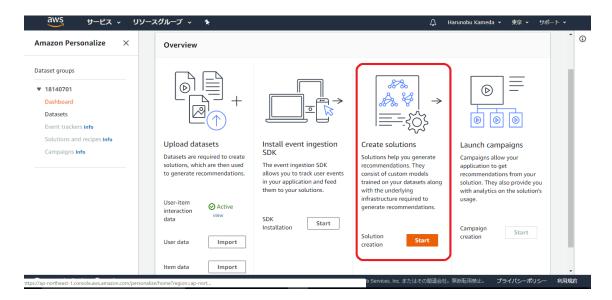


- 14. 取り込んだデータ(ratings.csv)の読み込みに少し時間がかかりま
- す。(20 分ぐらい)。待ち時間の間に、Forecast のハンズオンを続行します。

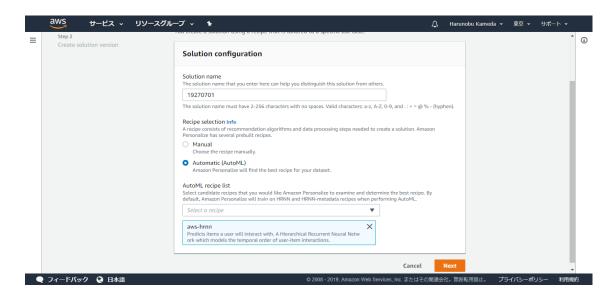
[Active]と表示されれば完了です。



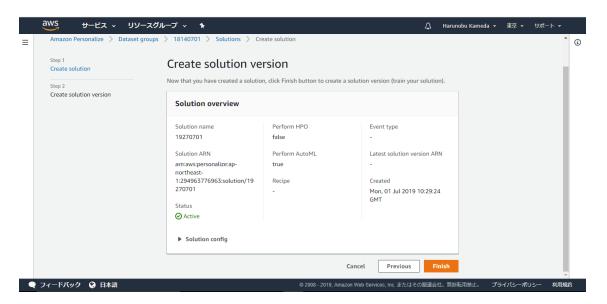
1 5. [Create Solutions]の[Start]を押します。読み込んだ datasets をもとに学習を開始します。



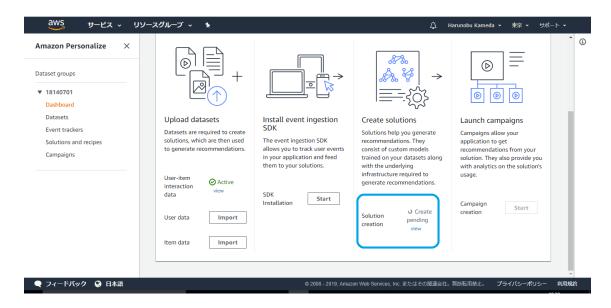
16. [Solution Name]を入力し、[Automatic (AutoML)]を選択します。ドロップダウンリストから[aws-hrnn]を選択し以下の画面のようになれば、[Next]を押します。



17. 以下の画面で[Finish]を押すと学習が開始されます。



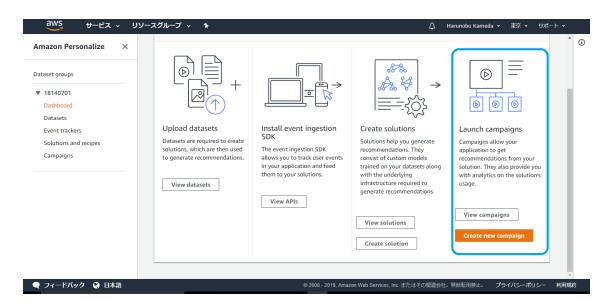
18. 学習は50分から1時間ぐらいかかります。



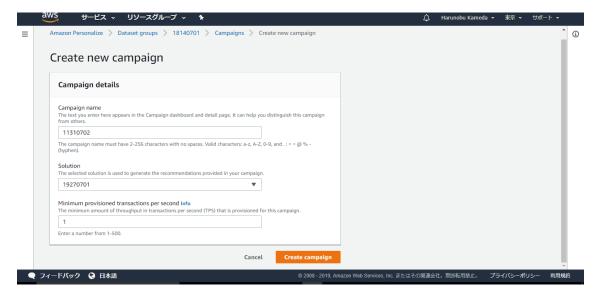
待ち時間の間に Forecast のハンズオンを続行します。

AWS CLI が使える方は待ち時間に余裕があれば巻末の手順を参考に AWS CLI の実行環境の準備をしてみてください。

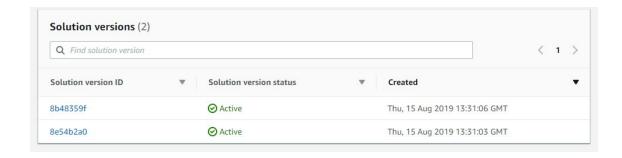
19. 学習が完了すると、[Create New Campaign]のボタンを押せるようになります。Campaign は一般的な機械学習用語でいうと、推論モデルのデプロイになります。



2 0. [Campaign Name]に任意の名前を入れます。[Solution]は先ほど作成した Solution の名前をドロップダウンから選択します。[Minimum provisioned transactions per second]はデフォルト状態のまま[Create Campaign]を押します。

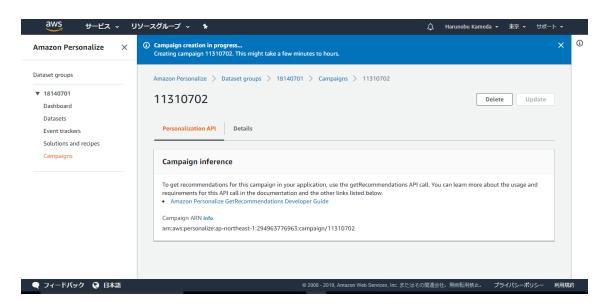


エラーが表示された場合、ソリューションの詳細画面を開いてください。



ソリューションは自動で作成されますが、1個が作成中の可能性があります。

21. 推論環境の構築が終わるまで待ちます。



待ち時間の間に Forecast のハンズオンを続行します。

2 2. 作成が完了すると[Test Campaign Result]が表示されますので、1 から 601 までの任意のユーザーID を入力し、[Get Recommendations]を押します。ratings.csv をもとに、入力されたユーザーの映画視聴履歴と相関のある 別ユーザーの映画視聴履歴からレコメンドが出力されます。 映画は ID で出力されますので以下のデータをもとに補正します。

https://grouplens.org/datasets/movielens/

http://files.grouplens.org/datasets/movielens/ml-latest-small.zip

```
その他:時間に余裕があれば LightSail で AWS CLI 経由での操作に挑戦してみ
てください。
[GetRecommendations]を用いて以下のようにレコメンドを出力できます。
aws personalize-runtime get-recommendations ¥
 --campaign-arn arn:aws:personalize:us-west-2:acct-
id:campaign/MovieRecommendationCampaign ¥
 --user-id 123
以下のように JSON でレコメンドが出力されます。
{
"itemList": [
       "itemId": "14"
    },
       "itemId": "15"
```

```
},
        "itemId": "275"
     },
        "itemId": "283"
     },
     {
     "itemId": "273"
     },
]
}
```

- 一番簡単な AWS CLI 環境の構築は Amazon Lightsail です。
- 1. Amazon Lightsail の管理画面で[インスタンスの作成]を押します



2. [OSのみ]を選択します



- 2. Amazon Linux が選択されていることを確認し、残りは全てデフォルト値で[インタンスの作成]を押します。
- 3. インスタンスが作成中となりますので少しまちます



4. 実行中になったら起動が完了ですので、コンソールボタンを押します。



- 5. [sudo pip install -U awscli]で CLI をアップグレードします。
- 6. [aws configure]でデフォルトリージョンを作業中のリージョンに指定し
- ます。(東京であれば[ap-northeast-1])
- CLI の実行権限([AmazonPersonalizeFullAccess]と

[AmazonPersonalizeFullAccess]を合わせて設定します。)この際設定する

IAM □ールは[AmazonPersonalizeFullAccess]を保持している必要があります。

[Default output format]はデフォルトのまま[None]を設定します。

7. aws personalize-runtime get-recommendations --campaign-arn arn:<personalize campaign σ arn> --user-id 123 のように入力し実行します。

以下のようなエラーがでた場合、IAM ロールの設定ミスが発生しています。

An error occurred (AccessDeniedException) when calling the

GetRecommendations operation: User:

arn:aws:sts::320976636470:assumed-

role/AmazonLightsailInstanceRole/i-0fa8803af5e4611ee is not authorized to access this resource

8. 成功した場合以下が表示されます。